Kyoto Institute for Regional Prospects

KIRP

NEWS LETTER No.13

【セミナーのご案内】

お知らせ

「住民自身がまちの未来を創造するために ～能登SDGsラボのコトづくり・人づくり～」

2019/12/26(木)　14:30～17:00

場所：京都府立大学　稲盛記念会館　（京都市左京区下鴨半木町１－５）

基調報告１

「能登SDGsラボの取組」

永井 三岐子氏　（国連大学IASいしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット事務局長）

基調報告２**「住民参加型で、SDGs達成のための自治体戦略をデザインする」**

高木 超氏　（慶應義塾大学政策・メディア研究科特任助教、SDGs-SWY共同代表）

事　例　報　告　：高澤 千絵氏（石川県志賀町地域おこし協力隊）

コメンテーター　：桂 明宏（公共政策学部教授、京都地域未来創造センター副センター長）

コーディネーター：鈴木 暁子（ 京都地域未来創造センター 上席研究員）

日本各地では、SDGs推進を軸とした、地方自治体、民間企業、教育・研究機関、NPO/NGOといった多様なステークホルダーの連携による地域づくりや地域経済、産業イノベーション振興が盛んになっています。こうした動きを一過性の事業に終わらせないためには、SDGs推進のプロセスであらかじめ住民の関わりをデザインすることや、地域の課題解決を担う人づくりが重要です。

第5回では、自然と共生する知恵と技術を活かした持続可能な社会モデルとして国際的に認知されている能登半島での実践を取り上げます。能登では、2007年から金沢大学を中心に地元自治体と連携して、能登の課題解決に取り組む人材育成「能登里山里海マイスター育成プログラム」を展開しています。2018年度には、珠洲市がSDGs未来都市に選定されたことを契機に開設された能登SDGsラボを拠点に、世界農業遺産「能登の里山里海」の活用や自動運転システムの検討など、地域全体に好循環を生み出す取組が生まれています。

本セミナーでは能登でSDGs推進に関わる方をお招きし、こうした取組を紹介いただくとともに、人づくり・住民参加の視点を深めながら、SDGs推進をブームで終わらせないための方策について考えます。

【「水源の里自然大学」開催報告】(共催)

報告

京都府立大学は、綾部市上林地区において、綾部市水源の里協議会との共催で、連続講座「水源の里・自然大学」を開催していきました。これまで、第１回・光野、第２回・市志、第３回・老富、第４回・古屋と、水源の里の各集落を回ってきました。それぞれ、屋外で里山の魅力とふれあった後、府大の教員が希少植物・昆虫などの自然や人と里山の関係などについて講義を行いました。毎回、平日にもかかわらず、満員御礼の盛況でした。

自然大学の取り組みには、綾部市の後援による全面協力を得たほか、上林小・中一貫校とも連携して、地域学習の一環として生徒さんにも参加してもらい、地域の良さを感じてもらっています。最終回は、11月19日に上林小・中学校で「森のもつ多面的価値ー森を護ることの大切さを考える」という題目で講義をおこないます。

水源の里・老富での自然大学

【ACTRポケットセミナー開催報告】

2019年10月1日（火）13:00～15:00「地域貢献型特別研究ACTRポケットセミナー」を開催しました。当日は、公共政策学部から1件、文学部から1件、生命環境科学研究科から2件の研究成果や今後の取組みなどについて報告しました。参加者からは、「4テーマとも面白かった」「府立大学が地域貢献型研究をされていることを知った」との意見や、一方で「研究をいかに継続して広く展開するかが一つの課題ではないか」などの意見をいただきました。今後も府内の市町村、企業、NPO等と連携して地域課題の解決に積極的に取り組み、研究成果を広く府内に還元できるよう努めていきます。

ACTRポケットセミナーの様子

KIRPについて

京都地域未来創造センター（KIRP）は、京都府立大学の「知」を活かし、地域の未来を創るための拠点として発足した地域に向けた総合窓口です。共同研究、受託研究等に関するご質問、ご相談があればお気軽にお問い合わせください。

Tel ：075-703-5390
Fax：075-703-4979
mail：kirpinfo@kpu.ac.jp
HP：https://www.kpu.ac.jp/

〒606-8522
京都市左京区下鴨半木町1−5
稲盛記念会館 １階

京都府立大学
京都地域未来創造センター
KYOTO INSTITUTE FOR
REGIONAL PROSPECTS

TOPICS

【研究の動き】受託研究2019年度京都府市町村振興協会「海外行政調査研究プログラム」報告

バードビルンバッハ（ドイツ）の温泉保養施設ロッタル・テルメにて

2019年度はドイツとオーストリアの中小地方都市を研修の場に選びました。参加者は府下10市町村から13名が参加し、京都地域未来創造センターからも青山統括マネージャーと鈴木上席研究員が参加、事務局も含めると総勢17名の調査団でした

ドイツでまず最初に、ミュンヘンから約140㎞東の人口4,500人の温泉町バート・ビルンバッハを訪問しました。この町では自動運転化されたバスが2017年から導入され、温泉を訪れる保養客や、住民の足を担っていました。温泉もユニークな温泉浴の施設（右写真）やリハビリ施設を設備し、人々の健康増進に寄与する町として注目されていました。

次に行ったのが、エアランゲン市でした。エアランゲンは人口11万人の都市で、ここでは現地に在住するジャーナリスト高松平蔵さんが主宰するドイツの地方自治や人々の価値観を学ぶ「インターローカルスクール」に参加するとともに、市役所を訪れ、市長さんからエアランゲンの戦略をお聞きしました。

エアランゲンの後、農福連携の現場や、湖水地方と言われる地域で民泊を体験して、その後、オーストリアのウィーンに向かいました。オーストリアでは、ウィーンから180㎞程度南のギュッシングという再生可能エネルギーでエネルギーを自給している町に学びました。また、巨大観光都市ウィーン郊外のバーデンという都市を訪問し、市の職員達が策定した観光都市戦略を学びました。

全体的には、今回は中小規模の市町村、農山村部などを中心に視察研修し、バスの自動運転や農福連携、農家民泊、再生可能エネルギー、大観光地周辺の観光等々、多様な学習ができ、参加者の皆さんの満足度も高かったと思います。

KIRP学生部会かごら

「府民交流フェスタin 京都府立植物園」に出展【11月3日】

京都府立大学京都地域未来創造センターは、昨年にひき続きこの催しに出展し、本学の地域貢献について府民に知っていただく取り組みを行いました。地域貢献型特別研究（ＡＣＴＲ）や「かごら」の活動紹介、附属農場の農産物の販売に加え、「木の香り薫る学び舎整備事業」で森林科学科と環境デザイン学科の学生が、京都府立高等技術専門校と共同製作した木工製品の実物展示を行いました。今年も、かごらが展示内容と農産物の販売に協力。ステージでは学生ラジオ部会のメンバー「かぷらじfeat.府大放送局」が初めてＭＣを担当しました。

かごらの活動の様子

COC+だより

学生のアイディアで光る「COC+地域カフェ」

この夏、京都府北部の２箇所の「地域創生フィールド演習」で、ご当地の食材を使った地域カフェを開きました。

①「KOKIN」一日店長
日時：2019.9.17 会場：FLAT+（舞鶴市平野屋）

メニューは平野屋商店街で買い求めた地元特産の万願寺とうがらしとすだちを使った「ガパオライス」と「すだちソーダ」。30名近い方に食べていただき、商店街の方やお客さんともいろいろとお話をすることができました。開店前にはFMまいづるのラジオ中継も行ったので、ラジオを聞いてかけつけてくださった方もありました。FLAT+は商店街の空き店舗を活用したカフェで、地域の方の憩いの場であり交流の場となっていました。KOKINの大滝様のまちづくりにかける熱い思いも聞かせていただき、貴重な経験になりました。

ガパオライスとすだちソーダ

FMまいづる中継中

②「伊根浦ゆっくり観光の会」こもいけあんみつ
日時：2019.9.28～29 会場：海蔵寺（伊根町平田）

伊根博覧会の出店としてあんみつづくりを行いました。材料は伊根町の薦池集落でしか栽培できない薦池大納言、地元産のすももジャム、天草を煮出して作った寒天など、地元特産にこだわった「こもいけあんみつ」。大納言煮や寒天づくりは初めてでしたが、2日間で50食分が完売となり、本当に美味しいとたくさんの方に喜んでいただきました。宿泊は舟屋に泊まらせていただき、伊根浦ゆっくり観光の会の天野様から伊根の暮らしと観光のあり方についてお話を聞かせていただきました。伊根町での貴重な経験と多くの出会いは一生忘れることができません。お世話になったみなさん、ありがとうございました！

伊根浦のみなさんと

こもいけあんみつ